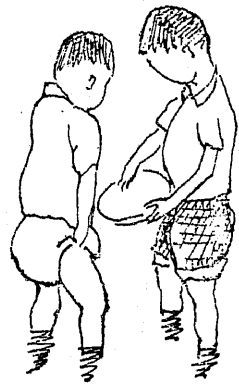


# 幼児の繪の指導者

久保貞次郎



一

幼児の繪のもつともよい指導者は誰か。こういう質問をい

まの幼稚園の先生方にだした時、先生達は自信をもつて、即座に「それは私達だ」と答えるだろうか。ある先生達はけんそんしながらも「それはやつぱり私達でなければならぬ」と答えるだろう。そういう人々は幼児の畫の正しい指導についてある自信をいだいておるのだろう。しかし大部分は「私達は繪の見方ということを知らないから、ほんとうの意味で幼児の繪を見ることも出来ないし、従つてよい指導の方法も知らない」というのではなからうか。

すると一體誰がそのことを知つてゐるのであるか。例えば繪は畫家が専門家だから、畫家がよい指導者だ、というふうに考へる人々があるかもしれない。しかし果して畫家が幼児の畫のよい指導者であろうか。勿論畫家といつてもいろいろその人によつてちがうから例外を考へなければならぬ。

しかし一般にいつて、畫家がよい指導者たる傾向をもつてゐるであろうか。この問題に關係して僕は一つの引用文を諸君にお目にかけてよう。

「私達はこの十數年間に、日本の兒童畫を、世界各國の兒童畫に比較する機會を幾度も持つことができた。その都度、遠つた國には違つた技法や感受性や表現形式のあるのを見出して興味深く感じたことであるが、そういうローカル・カラーを抜きにして、兒童畫を單に兒童の美術的作品として見た場合、日本の兒童畫の方が眞面目にも劣つてゐると思われたことはまず一度もなかつたのである。フランスの兒童畫でさえ日本より際立つて傑れてゐると思わなかつた」

これは一九四九年二月の6—3教室「兒童畫について」という伊原宇三郎氏の論文の一節である。僕は一九三八—三九年アメリカとヨーロッパを廻り、十七ヶ國三千枚の兒童畫を集め、又メキシコに於ける北川民次氏の指導したすばらしいメキシコ兒童畫の蒐集を絶えずとり出して見て、日本の兒童

畫が歐米の兒童畫に比べて劣つていないという結論は、一體どこから出てくるのか、考へて見た。そしてこゝで僕は伊原氏の「兒童畫を單に兒童の美術的作品として見た場合」という言葉の意味を深く検討してみる必要があるのではないかと氣がついた。いつたい、幼兒の繪でも兒童畫でも、美術作品として見る以外に他に見方があるものだろうか。

## 二一

こゝで僕は一つのことを思い出す。それは一九四八年、名古屋市中で讀賣新聞主催で、泰西名畫展を開いた時、その展覽會のために行つた荒城季夫氏、田近憲三氏と三人で美術批評家の座談會が地方新聞主催で開かれた。その時僕が日本の畫壇の低俗さを非難し、それを救う多くの手段の一つの道として圖畫教育の徹底的改革を述べた。それに對し、荒城氏が僕に提出した質問は意味のあるものであつた。それは「子供の繪を見る時、それを純粹に藝術的觀點からか、それとも教育的觀點からか、それともつと別の面から判斷するのが」という問題であつた。この疑問を解くことはまずいくらか、一般に畫家が子供の繪のよい指導者かどうかの課題を解くのに役立つようである。即ち伊原氏は兒童畫を「美術的作品」として見るのが一つの見方であり、他に別の見方があるという見解を暗に認めているし、荒城氏はそのような疑問をいだいていたにちがいない。ところで美術的作品として見る以外に難でも考へられることは教育的觀點であろう。又心理的觀

點ということも頭に浮ぶだろう。しかし世界の優れた圖畫教育者の見解も又僕が多數の兒童畫を調べた結果から見ても、美術的によいものは教育的にも心理的にもよいものであるのだ。即ち教育的とは、子供の心理の發達に應じて子供の精神を延ばすことである。即ち教育的であることは心理的であることである。そして美とは創造的であることを意味し、教育的に子供を指導することは子供を創造的にすることであるからである（參照、6—3教室四九年五月附録、「兒童畫の見方」）、美術的作品などという、ひどく權威があるように聞えるが、それは單に美しいものという意味である。

ところで畫家達が、美術的作品などよつて、それを特殊な技術や構圖や色彩の原則によつて作られているものと考え過ぎてるところがないだろうか。即ち伊原氏のように、「兒童畫を單に兒童の美術的作品として見た場合、日本の兒童畫の方が最良目にも劣つていると思わされたことはまず一度もなかつたのである」と云うのも、果たして正しいかどうか疑いをさしはさまねばならないだろう。即ち「美術的作品として兒童畫を見る」というような人に限つて、實はほんとうの意味で美術的に見るのではなく、大人のしかも型にはまつた低俗な繪畫の形式に従つて、兒童畫を見るという誤ちを犯しやすいのではなからうか。じつさい、僕は日本の兒童畫は歐米の兒童畫に比べて現在までのところ、まつたく劣つていると斷言したい。日本の兒童畫はのび／＼していない、型にはまつている、陰氣くさい、畫をつくりあげている。確乎たる

自信がない、樂しさが無い。歐米の兒童畫は程度のちがいはあつても、その反對である。そして最後に日本の子供の繪と歐米の子供の繪の根本的なちがいは、精神の緊張の點においてまつたく比べものにならないということである。疑う人々は、歐米の兒童畫と日本の兒童畫を比べて見給え。そして彼等とこちらの精神の緊張力のちがいを發見することができない諸君は、諸君自らの精神の緊張力を疑い、馬を野外に走らせて、麥畑のなかでも落馬してみることがあるだろう。そして再びたち戻つて、歐米の兒童畫と日本の兒童畫の前に立つべきである。しかしそれでも兩者の重大なちがいを見出し得ない人々は、志を決して、タルタラン・ド・タラスコンのようになりかして猛獸狩りに旅立つべきであろう。その志が決しかねるといふならば、その人々は最早兒童畫の前から永遠に姿をくらますより他に運命は開かれていないというべきであろう。

### 三

じつさい、のび／＼している、型にはまつていない、畫を畫としてつくりあげていない、新鮮である。確乎たる自信にあふれている、或は樂しい、迫力がある、という條件の一つでも數個でも具えていればその兒童畫は美しいのだ。これより他に美の標準があるのであろうか。子供の繪の美の標準も大人の畫の美の標準も、原則としてはかわりがないものである。そして歐米の兒童畫のなかに僕達は彼等の精神の緊張を

感じ、その緊張力を見える僕達の精神を緊張させ、僕達の生活を豊かにし、明日の闘いへと奮いたしめる。このすばらしさに僕達は敬服する。日本の兒童畫はこれに反して、餘りにも技巧的であり、無表情であり、その上いちばん困つたことに、精神がだらりとしていることだ。これは日本の兒童畫を見る人々の意氣を失わせ、人々を彼等と同じような空虚な世界にまで迷いこませるところがある。こゝで僕はイギリスの美術批評家ヘアアド・リイドに耳をかたむけよう。僕は一九三八年秋ロンドンで、あのピカソの傑作ゲルニカの前で、アンティ・フランコのスペイン政府救済資金募集の詩の朗讀會で、彼が讀む詩を聞いた。「藝術作品はある意味で個性の解放である。我々の感情は普通には禁止され抑制されている。我々が藝術作品を觀察するとき、直ちにそこには解放がある。——藝術は感情の解放である——尙又そこには向上があり、緊張があり、醇化がある。こゝに藝術と感傷的なるものとの間に根本的な相違があるのである。感傷的なるものは解放ではあるが、又情緒の弛緩であり、緩和である。藝術は解放ではあるが、又緊張である。」(藝術の意味)日本の兒童畫は、一般にはこの感傷的なものなまでに到達していない程粗野である。歐米の兒童畫は日本の子供の比べれば、まさに藝術的とさえいえるだろう。

畫家は美しいものを感ずるのに他の職業の人々よりも敏感な筈である。ところが彼等の感ずる美しい形なり色というものが、形式的なものにおちいりやすいのだ。従つてよい畫を

かく子供の親が、よく自分の子供を得意になつて畫家につかせる時、見る見るうちにおそるべき劣悪な作品をつくり出し、しかも、反省するところがない。こういう例は、日本には数えることができない程ある。その上に、畫家は子供の心理について深い理解をもつてゐる人々とはいへない。従つて子供の自由な精神と、子供の發達してゆく精神の特徴を知らないために、たゞ繪をつくりあげさせることばかりに氣をとられて、じつは子供に恐るべき抑壓を加へてゐることに氣づかない。しかも彼等は畫のわかるのは自分達だけ、畫も描かない、描けもしない教師がどうしてほんとうの指導ができるのか、などという見下した考をもつてゐる。それは大人の畫のような畫を一ヶ月でもはやく子供に描かせるのが、子供の繪の指導だと彼等が考へちがひしてゐるからだ。しかも現在の日本の畫家の畫のようなものを子供が描けるようになってからといつて、それが日本の文化にどんな貢獻をするというのだらう。そんなつたら日本は今に輪をかけた怪しげな文化國家になるだらう。

#### 四

次に美しささえ感得できれば子供の心理など知らなくてもよいだらうと云う人がゐるかもしれない。それはそうだ。そういう才能に恵れた人は、自分の能力を充分信頼してよいだらう。しかしそういう人でも感覺だけで生きてゐるわけではない。まして感覺はたえずある程度理性によつて反省され、

擴げられ高まつてゆくものである。その上子供の繪のなかにある美しさが常に健全な誰にもたやすく感得できる美しさならよいが、日本のような、子供に抑壓が限り知れない程強い國では、子供の心が非常にねじまげられていて——大人の心はいうまでもない。數百年をへた古木の根のようだ——子供の繪もまた心を同じようにひどくねじまげられてゐる。だから心理的な理解がないと、そのような一部分の不幸な子供達の表現してゐる、弱々しい、しかしやはり激勵すべき精神の芽を示してゐる美しさは見落されがちである。この僅かな消えかゝつてゐる燈火のようなあわい美しさも美しさとして認めなければ、日本の子供達の創造的精神は極くわずかの例外を除き、皆死にたえてしまふだらう。何故ならこのような美しさを表現する子供達は、嵐の中をおもてをあげて前進する勇敢な子供達程はすばらしくないが、その子供達に續いて行こうとする、いくらか希望のもてる個性のある子供達であるからだ。このような消極的な美しさのほんとうの意味を理解するには勿論この他すべての種類の子供の繪を正しく理解するには心理學の援けが在る。そしてその援けによつて、子供達の繪を理解すると同時に子供達をどう指導したらよいかの具體的な方法もたつのである。なるほどほんとうの大人の美術の正しい理解のある人々は、かなりの程度まで、子供の繪が理解できることはたしかである。しかし彼等の子供の繪の鑑賞力と指導力は兒童心理學と協力してもつと進歩すべきだらう。まして、大人の美術の正しい理解のない人々

で、子供の心理にいくらかの理解もなければ、あのそれぞれの子供が、形成している複雑な個性の表現である繪を正しく鑑賞することを望むのはむずかしいだろう。まして、彼等が更に無限に進歩する鑑賞家になることは、到底のぞめないだろう。

このように論じてくると、畫家一般は意外に子供の畫の適當な指導者とは云い難いことになる。そしてむしろ、いわゆる畫家の軽べつする、畫筆をとつたこともない、幼稚園の婦人の先生達で、ピカソやマチスも見たことのない先生達でも、子供の遊びに興味と洞察力をもつていさえすれば、やがて幼児の畫の正しい鑑賞家になれるものだ。いつたい畫がかけない人はよい繪の教師でないなどといふ出したのは誰だろう。それは他ならぬ技巧主義の繪を信じている人々であろう。僕はむしろ畫をかゝない人々のなかに、畫をかく諸君よりも、反つて畫のよい鑑賞家がいることをたくさん實例で知つてゐる。詩をつくる人必ずしも詩人ならず、詩をつくらずとも、詩的のものを感じ表現してゐる人がいることを諸君は認めるだろう。

このように幼児の畫の正しい鑑賞家になれれば、まず指導者として半ば完成したことを意味する。あとは子供が子供の遊びの一つである繪をかく時、教師は自由な寛い心をもつて子供を賞讃し、激励することが必要である。そして屋内でなり、戸外でなり、子供達が畫をかきたいという欲望を起こすように環境をつくり刺戟を與へること。そのためには子供達

を動物園につれてゆくことも、遊園地につれてゆくことも好ましい。又部屋に畫の道具をそろえてやることも、是非しなければならぬ。しかし教師として最も重要な仕事は、子供を家庭の抑壓から解放してやることである。この解放なくして子供達は元氣潑刺とならないだろうし、このほんとうの自由を無視して幼児の繪の正しい指導はありえないだろう。

## 紹介と予告

### ○アンデルセン童話集

(長沼依山譯述)

全國保育連合會常任理事で、童話家としても馴染深い浦和幼稚園長長沼依山氏は、今度アンデルセン童話中の名高いもの十篇を選んでロンドン版から訳述刊行した。本書は小学校や保育関係者の談話読本としても相應しく而も全部新かなづかいを用い、小学校二三年から自分で読解出来るように書いてある。敢て談話資料としてお薦めしたい。(B6二頁、定價百円、萩原屋文館發行)

### ○「幼稚園レコード」の配給

此の度び文部省の斡旋により、保育要領に載せてある幼児のための「鑑賞用音楽レコード」をビクター、コロムビア、ポリドールの三社で製造、日本蓄音器レコード協会の手によつて配給される事になった。幼稚園、保育所、其他一般家庭を配給対象とし、種目はさし当り二〇枚である。発売予定は六月上旬であるが詳細については改めて發表されます。